

05 かがわスマート農業普及戦略の策定

- 香川県では、令和3年11月に「かがわスマート農業普及戦略」を策定し、農業現場における課題を適切に設定、また導入コストを踏まえながら、戦略的にスマート農業技術の普及・活用及び研究開発を進めることとしています。
- 戦略では、スマート農業の導入の必要性、活用の方向性、農業振興の基本方針を定め、「普及・啓発」「導入・活用推進」「技術、研究開発」を重点的に進めることとして、各作目ごとに推進方向を示しています。

本県におけるスマート農業の推進イメージ

知る

- ①情報の収集と発信
- ②触れる機会の創出
- ③スマート農業への意識改革

試す

- ①スマート農業の実証
- ②本県農業の実態に合ったスマート農業技術・機器等の開発

使いこなす

- ①スマート農業を使いこなす人材の育成
- ②スマート農業の普及・定着に向けた推進体制の整備

+ 研究開発

「スマート農業」の利用価値に期待が高まっているものの、「導入にコストがかかる」、「使いこなすための人材育成が必要」などの課題も見受けられます。

関心がある、導入を検討される場合は、ご相談ください。

○農業経営課

普及・研究グループ
農業革新支援グループ

TEL.087-832-3404

TEL.087-814-7319

Mail noukei16300@pref.kagawa.lg.jp

○東讃農業改良普及センター

TEL.0879-42-0190

Mail tosannokai@pref.kagawa.lg.jp

○小豆農業改良普及センター

TEL.0879-75-0145

Mail shozunokai@pref.kagawa.lg.jp

○中讃農業改良普及センター

TEL.0877-62-1022

Mail chusannokai@pref.kagawa.lg.jp

○西讃農業改良普及センター

TEL.0875-62-3075

Mail seisannokai@pref.kagawa.lg.jp

あなたの経営に

スマート農業を

SMART AGRICULTURE

加えませんか。



「生産性向上」、「省力化」、
「見える化」などの
メリットが期待できます。



香川県では、農産物の「品質向上」、農作業の「省力化」、改善ポイントの「見える化」などを効果的に進めるため、ICT等のデジタル技術を活用したスマート農業の啓発、データ駆動型農業の推進、スマート農機の導入支援を行っています。

この機会に、スマート農業に触れ、経営に取り入れませんか。

01 研修会、実演会の開催



- 農業者にスマート農業の基礎知識や機器等に関する情報を提供して、技術、機器を身近なものに感じてもらうため、県域または普及センター単位で、研修会や実演会などを開催しています。



理解促進

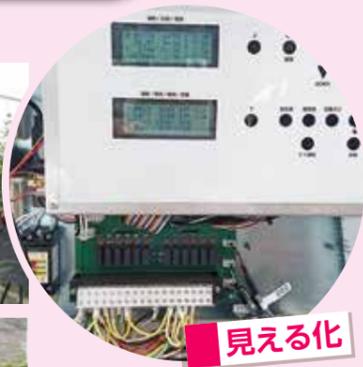
- 参加者からは、「さまざまなサービスを知ることができた。」「省力効果、見える化などが理解できた。」などの感想が寄せられました。

02 生育状況・環境の「見える化」でポイント把握

- 施設園芸（イチゴらくちんシステムやミニトマト）で、温度、二酸化炭素濃度などをモニタリング（見える化）し、傾向をつかむことで、高い生産技術を共有・改善し、生産性向上に努めています。
- 露地野菜（ブロッコリー）などで、生育状況や作業記録をデジタル化、共有して、出荷予測に役立っている産地もあります。



生産性向上



見える化



見える化

03 ロボット技術等の活用による「自動化・省力化」



省力化



見える化

省力化

- 直進アシスト機能付きのトラクター、田植機、防除機を活用し、GPSなど位置情報と連動させつつ、畝立て、施肥、マルチがけなどを同時に行うことで、正確かつ迅速な作業を行っています。
- 一部農業法人では、手作業に比べ、面積当たり労働時間が73.5%削減されました。
- このほか、農業試験場では、水稻の水管理を省力化する実証試験を行っています。

04 畜産における個体管理・情報共有

- 畜産業では、離れた畜舎や夜間における家畜の発情や分娩兆候などをスマート機器により素早く把握することで、生産性の向上や作業負担の軽減に役立っています。
- 大規模な畜産経営体では、家畜の個体ごとに生産量や繁殖管理などのデータをスマート機器で一元管理することで、複数の作業員で情報を共有して効率的な管理を行うことができます。



見える化

生産性向上



情報共有